

不適応がまだ顕在しない乳幼児期に保護者が「障害」を受けとめるのは困難な状況があることを忘れてはならない。

ASD の支援に当たる専門家は、こういった高年齢群の育ちの経過と子どもの各ライフステージで保護者が感じる子育て困難を念頭に置く必要がある。そして先に述べた高年齢群を把握するための観点を持ちつつ、乳幼児期においては保護者の子育て困難と幼稚園保育所の気づきから子育て支援からの発達支援をスタートさせ、子ども自身が持っている困難性とそれに対する保護者の理解とのギャップを丁寧に橋渡ししていく配慮が必要であろう。そのようにすることで、高年齢群の早期からの支援が可能になると考えられる。

Jl of Clin Psychol, 54, 645-654

#### G. 研究発表

なし

#### <文献>

西澤千枝美(2010). 幼児の不安傾向とその関連要因の検討(中間報告), 発達研究, 24, 239-2444

西澤千枝美(2011). 幼児の不安傾向とその関連要因の検討－改訂版幼児用不安傾向評定尺度の作成－, 発達研究, 25, 121-134

境 泉洋, 堀川 寛, 野中俊介 他(2011). 「引きこもり」の実態に関する調査報告書⑧, NPO 法人 全国引きこもり KHJ 親の会

Sakamoto, S.(1998) The Preoccupation Scale: It's Development and Relationship with Depression Scales.

Appendix.1 PARS 幼児期評定項目および思春期・成人期評定項目

	幼児期	思春期・成人期
1 視線が合わない	○	—
2 他の子どもに興味がない	○	—
3 名前を呼んでも振り向かない	○	—
4 見せたい物を持ってくることがない	○	—
5 指さして興味のあるものを伝えない	○	—
6 言葉の遅れがある	○	—
7 会話が続かない	○	—
8 一方通行に自分の言いたいことだけを言う	○	—
9 友達とごっこ遊びをしない	○	—
10 オウム返しの応答が目立つ	○	—
11 CMなどをそのままの言葉で繰り返し言う	○	—
12 感覚遊びに没頭する	○	—
13 道路標識やマーク、数字、文字が大好きである	○	—
14 くるくる回るものを見るのが好きである	○	—
15 物を横目で見たり、極度に目に近づけて見たりする	○	—
16 玩具や瓶などを並べる遊びに没頭する	○	—
17 つま先で歩くことがある	○	—
18 多動で、手を離すとどこに行くかわからない	○	—
19 食べ物でないものを食べたり呑み込んだりする	○	—
20 抱っこされるのを嫌がる	○	—
21 ビデオの特定場面を繰り返し見る	○	—
22 ページめくりや紙破りなど、物を同じやり方で繰り返しいじる	○	—
23 全身や身体の一部を、同じパターンで動かし続けることがある	○	—
24 身体に触れられることを嫌がる	○	—
25 同じ質問をしつこくする	○	—
26 普段通りの状況や手順が急に変わると、混乱する	○	—
27 生活習慣が乱れ、身辺自立ができなくなる	○	—
28 過去の嫌なことを思い出して、不安定になる	○	—
29 偏食が激しく、食べ物のレパートリーが極端に狭い	○	—
30 特定の音を嫌がる	○	—
31 痛みや熱さなどに鈍感であったり、敏感である	○	—
32 何でもないものをひどく怖がる	○	—
33 急に泣いたり怒ったりする	○	—
34 頭を壁に打ちつける、手を咬むなど、自分が傷つくことをする	○	—
35 年齢相応の友達関係がない	—	—
36 周囲に配慮せず自分中心の行動をする	—	—
37 人から関わられた時の対応が場にあっていない	—	—
38 要求がある時だけ自分から人に関わる	—	—
39 言われたことを場面に応じて理解するのが難しい	—	—
40 難しい言葉を使うが、その意味をよくわかっていない	—	—
41 大勢の会話では、誰が誰に話しているのかがわからない	—	—
42 どのように、なぜ、といった説明ができない	—	—
43 抑揚の乏しい不自然な話し方をする	—	—
44 人の気持ちや意図がわからない	—	—
45 冗談や皮肉がわからず、文字通り受け取る	—	—
46 地名や駅名など、特定のテーマに関する知識獲得に没頭する	—	—
47 よく知っているテレビのシーンを独りで再現する	—	—
48 相手が嫌がることをわざと執拗に繰り返す	—	—
49 何かにつけ自分が一番でないと気がすまない	—	—
50 チック症状(瞬き・首振り・汚言等)がある	—	—
51 場に不適切なほど、行動が落ち着かない	—	—
52 不注意さがひどく、場に応じた行動ができない	—	—
53 行動が止まって次の行動に移れなくなったり、固まってしまったりす	—	—
54 恥ずかしさを感じていないように思える	—	—
55 人にだまされやすい	—	—
56 被害的あるいは猜疑的・攻撃的になりやすい	—	—
57 気分の波が激しく、落ち込みと興奮を繰り返す	○	—

### 調査協力者 基礎情報 記入フォーム

※ 以下の4. 5. にあるASDは現行用語では正確にはPDDですがASDと表記しています。

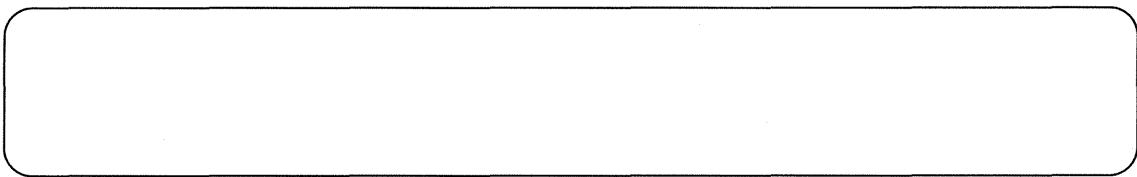
1. 本人氏名・性別・生年月日 / 保護者氏名

- 1) 本人氏名 [ ] / 性別 [ 男性・女性 ]
- 2) 本人の生年月日 [ 西暦 年 月 日 ]
- 3) 保護者氏名 [ ]

2. 初診年月日

- 1) 初診年月日 [ 西暦 年 月 日 ]

3. 初診時の主訴



4. ASDの診断年月日

- 1) 診断年月日 [ 西暦 年 月 日 ]

5. 診断名（自閉性障害やアスペルガー症候群など下位診断名／併存診断名〔あれば〕）

- 1) 主診断（ASD） [ ]
- 2) 併存診断 [ ]

6. 検査結果

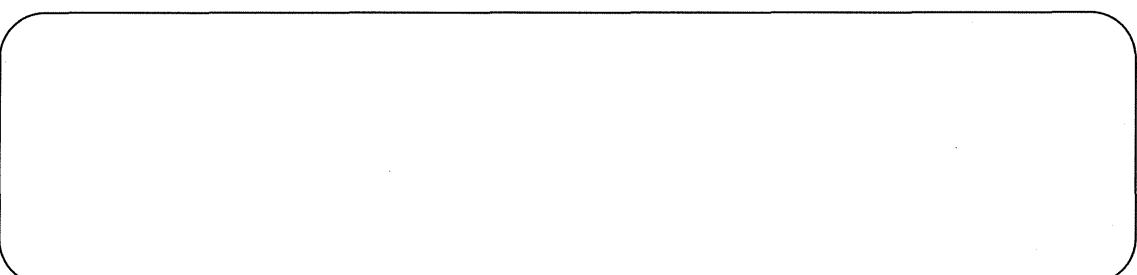
1) 知能検査（Wechsler系）

：検査名 [ ] / 結果① [FIQ= , VIQ= , PIQ= ]  
結果② [VC= , PO= , WM(FD)= , PS= ]

2) 知能検査（Wechsler系以外）

：検査名 [ ]  
：結果 [ ]

3) その他の検査名と検査結果（実施していれば）



## お子さんの“これまでの育ち”についての質問紙

この質問紙では、お子さんの“これまでの育ち”について、いくつかの質問をさせていただきます。ほとんどの質問は、該当する回答の  に  する（チェックする）方法で回答ができます。ただし、いくつかの質問については、[ ] 内に記入をしていただく場合もあります。

この面の裏面にも質問がありますので回答をお願いします。1ページと2ページが表面（いまお読みになっている面）に、3ページと4ページが裏面にあります。また、回答終了後に、チェック忘れや記入忘れがないかどうかの確認をお願い申し上げます。最初に、回答された保護者様のお名前と、お子様のお名前をご記入下さい。

保護者さまの氏名 / お子様の氏名

### ◆乳幼児健診、子育て、就学前療育について

1) 1歳6ヶ月児検診で言葉の遅れや対人関係など発達の遅れや偏りを指摘されましたか？

- 指摘された       指摘されていない

2) 3歳（3歳半）児検診で言葉の遅れや対人関係など、発達の遅れや偏りを指摘されましたか？

- 指摘された       指摘されていない

3) 1歳6ヶ月児健診あるいは3歳児健診で「指摘された」にをした方にお尋ねします。

母子通園センターなど、子育て支援や療育支援の場に通っていましたか？

- 通っていた       通っていない

4) 就学前に子育ての難しさを強く感じたことはありましたか？

- あった       なかつた

### ◆幼稚園や保育園の頃について

1) 幼稚園や保育園で言葉の遅れや対人関係など発達の遅れや偏りを指摘されたことがありますか？

- 指摘された       指摘されていない

2) 幼稚園や保育園にひどくなじめないような様子が見られましたか？

- 見られた       見られなかつた

3) 不登園がありましたか？

- あった       なかつた

※「あった」にをした方にお訪ねします。不登校はいつ頃からいつ頃まで続きましたか。

年齢と大体の時期を記入下さい。 [      歳の      月頃～      歳の      月頃まで]

### Appendix.3

4) 行動上の問題や精神的な不調で医療機関を受診したことがありましたか？

- あった       なかった

#### ◆小学校低学年（1年生～3年生）の頃について

1) 小学校低学年の時に言葉の遅れや対人関係の問題を指摘されたことがありますか？

- 指摘された       指摘されていない

2) 学校にひどくなじめないような様子が見られましたか？

- 見られた       見られなかつた

3) 不登校がありましたか？

- あった       なかつた

※「あった」に□をした方にお訪ねします。不登校はいつ頃からいつ頃まで続きましたか。  
学年と大体の時期を記入下さい。 [ 年生の 月頃～ 年生の 月頃まで ]

4) 行動上の問題や精神的な不調でスクールカウンセラーに相談したことがありますか？

- あった       なかつた

5) 特別支援教育の支援を何か受けていましたか？

- 受けていた [ 内容 : ]       受けていなかつた

6) 行動上の問題や精神的な不調で医療機関を受診したことがありますか？

- あった       なかつた

※「あった」に□をした方にお尋ねします。

受診科は       小児科       精神科（心療内科）       その他 [ ]

主訴は      [ ]

診断は       あつた [ 診断名 : ]       なかつた

#### ◆小学校高学年（4年生～6年生）

1) 小学校高学年の時に言葉の遅れや対人関係の問題を指摘されたことがありますか？

- 指摘された       指摘されていない

2) 学校にひどくなじめないような様子が見られましたか？

- 見られた       見られなかつた

3) 不登校がありましたか？

- あつた       なかつた

※「あつた」に□をした方にお訪ねします。不登校はいつ頃からいつ頃まで続きましたか。  
学年と大体の時期を記入下さい。 [ 年生の 月頃～ 年生の 月頃まで ]

裏面にも質問がありますので回答をお願いします。

### Appendix.3

4) 行動上の問題や精神的な不調でスクールカウンセラーに相談したことがありましたか？

あつた       なかつた

5) 特別支援教育の支援を何か受けていましたか？

受けていた [内容：]       受けていなかつた

6) 行動上の問題や精神的な不調で医療機関を受診したことがありましたか？

あつた       なかつた

※「あつた」に☑をした方にお尋ねします。

受診科は       小児科     精神科（心療内科）     その他 [ ]

主訴は      [ ]

診断は       あつた [診断名：]       なかつた

#### ◆中学校

1) 中学校の時に言葉の遅れや対人関係の問題を指摘されたことがありますか？

指摘された       指摘されていない

2) 学校にひどくなじめないような様子が見られましたか？

見られた       見られなかつた

3) 不登校がありましたか？

あつた       なかつた

※「あつた」に☑をした方にお訪ねします。不登校はいつ頃からいつ頃まで続きましたか。

学年と大体の時期を記入下さい。 [ 年生の 月頃～ 年生の 月頃まで ]

4) 行動上の問題や精神的な不調でスクールカウンセラーに相談したことがありましたか？

あつた       なかつた

5) 特別支援教育の支援を何か受けていましたか？

受けていた [内容：]       受けていなかつた

6) 行動上の問題や精神的な不調で医療機関を受診したことがありましたか？

あつた       なかつた

※「あつた」に☑をした方にお尋ねします。

受診科は       小児科     精神科（心療内科）     その他 [ ]

主訴は      [ ]

診断は       あつた [ ]       なかつた

### Appendix.3

◆高等学校（通信制、定時制、単位制、高等専門学校なども含みます）

1) 高等学校の時に言葉の遅れや対人関係の問題を指摘されたことがありますか？

- 指摘された       指摘されていない

2) 学校にひどくなじめないような様子が見られましたか？

- 見られた       見られなかった

3) 不登校がありましたか？

- あった       なかつた

※「あった」に☑をした方にお訪ねします。不登校はいつ頃からいつ頃まで続きましたか。  
学年と大体の時期を記入下さい。 [ 年生の 月頃～ 年生の 月頃まで ]

4) 行動上の問題や精神的な不調でスクールカウンセラーに相談したございましたか？

- あった       なかつた

5) 特別支援教育の支援を何か受けていましたか？

- 受けていた [ 内容： ]       受けていなかつた

6) 行動上の問題や精神的な不調で医療機関を受診したございましたか？

- あった       なかつた

※「あった」に☑をした方にお尋ねします。

受診科は       小児科       精神科（心療内科）       その他 [ ]

主訴は [ ]

診断は       あつた [ ]       なかつた

7) 高等学校を中途退学しましたか。

- 中途退学した       中途退学していない

以上で、アンケートの質問はすべてです。  
最後に、もう一度、回答し忘れた質問項目がないかどうかご確認後、□にチェック下さい。

※確認は終わりましたか？ →  はい

すべての質問にご回答いただき、ありがとうございました。

研究実施責任者  
北海道教育大学旭川校 特別支援教育分野  
教授 安達潤

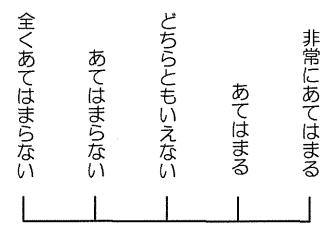
## 幼児期のお子さんについてのアンケート

このアンケートには34個の質問項目があります。

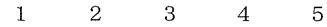
それぞれの文章をよく読んで、それがお子さんの3歳～5歳頃の様子にどのくらいあてはまるかを考えて、もっとも適していると思われるところに○印をつけてください。やり残しのないように、34個すべてについて答えてください。

保護者の方の氏名 :

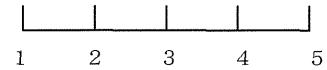
子どもさんの氏名 :



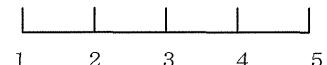
1. 保護者から離れると、泣いたり怖がったりした。



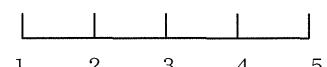
2. みんなの前で話をすることが苦手だった。



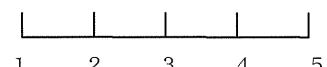
3. 何か新しいことを始めるとき、しりごみしてなかなか始められなかった。



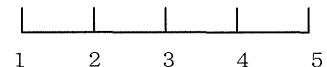
4. 園全体やクラスでの活動の時には、緊張して不安そうな表情になっていた。



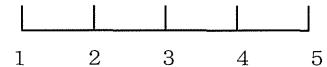
5. 初めて会う人に話しかけられても、答えられることが多かった。



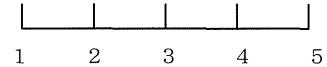
6. 大きな声で歌うことはあまり見られなかった。



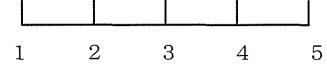
7. 自分や家族に何か悪いことが起きないかと心配していた。



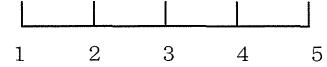
8. 高いところを恐がっていた。



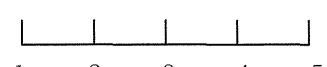
9. クモやヘビなどを恐がらなかった。



10. 失敗や間違いをしてしまうのではないかと心配していた。



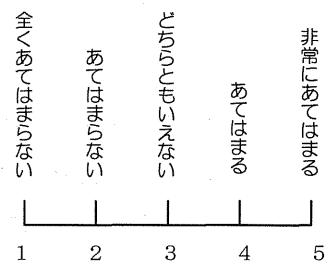
11. なかなか遊びに入らず、友だちのしていることを見ていることが多かった。



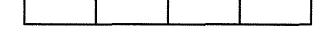
ページを開いて、次へお進み下さい。

## Appendix.4

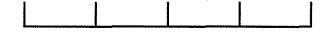
12. 暗いところを恐がっていた。



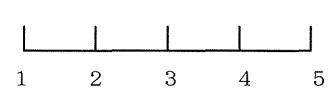
13. 担任の保育者に対して、自分から話しかけることが多かった。



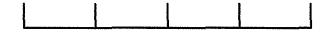
14. 絵を描くとき、人に見られないように隠しながら描いていた。



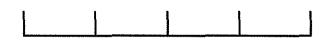
15. 何か気になることがあると、大人にたびたび確かめなければ気がすまないことがあった。



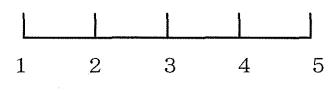
16. 何か悪いことが起きるのではないかと心配することが多かった。



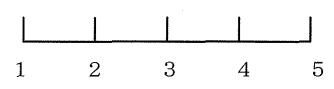
17. 登園時に保護者と離れにくく、泣くことが多かった。



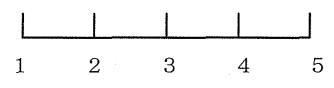
18. 地震や台風などの自然災害を恐がっていた。



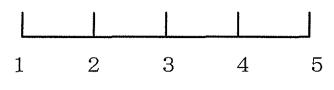
19. 手を洗うこと、掃除、自分で決めた順番で物を置くなど、自分で納得するまできちんとやらなければ気のすまないことがあった。



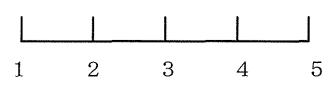
20. 今まで経験したことのない行事や遊びでも、ためらわずにすぐに入り込めた。



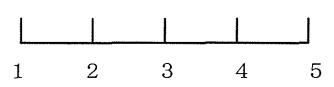
21. たくさんの人人が集まる所に行くと、保護者から離れなくなることがあった。



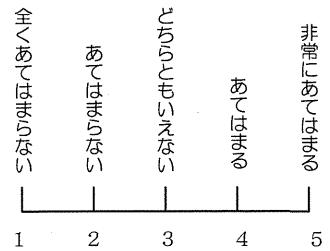
22. 健康診断や予防注射の時には落ち着きがなくなり、保護者から離れなくなったり泣いたりしていた。



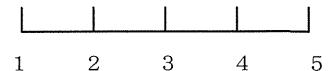
23. 特に理由はなさそうなのに、恐がって泣いたり保護者から離れなくなることがよくあった。



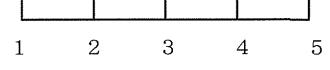
24. 初めての場所に行ったとき、なかなか保護者のそばを離れようとしなかった。



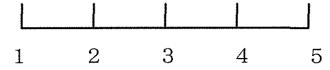
25. お化けや怪獣など、想像上のものを恐がった。



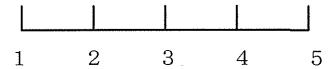
26. 行事や当番など、新しい活動や状況に慣れるのに時間がかかった。



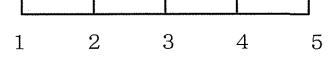
27. 保護者にまわりついたり、後追いをすることがあまりなかった。



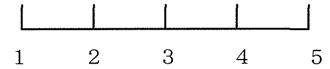
28. 幼稚園・保育園ではおしゃべりなほうだった。



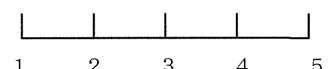
29. 仲の良い友達以外の友達と話しているのを見かけなかった。



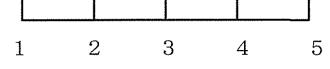
30. 友達からどう見られているかを気にすることが多かった。



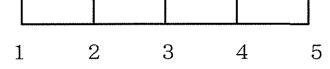
31. 神経質や心配性だと感じることがあった。



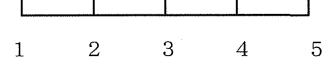
32. 保護者に甘え、手助けを求めることが多かった。



33. 雷や花火など大きな音を恐がっていた。



34. いろいろなことを、よく気にすることが多かった。



以上で、アンケートの質問はすべてです。

最後に、もう一度、回答し忘れた質問項目がないかどうかご確認後、□にチェック下さい。

※確認は終わりましたか？ → □ はい

すべての質問にご回答いただき、ありがとうございました。

研究実施責任者

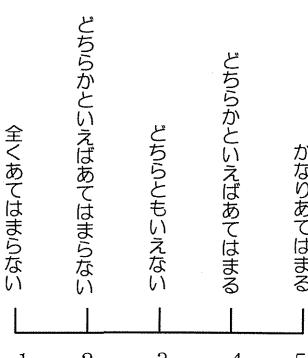
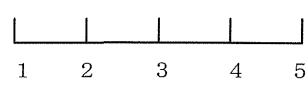
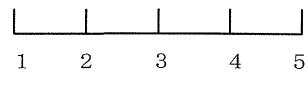
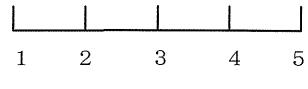
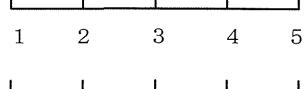
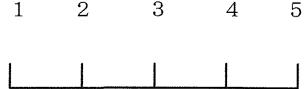
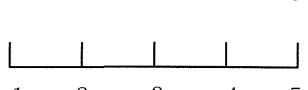
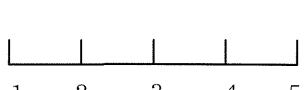
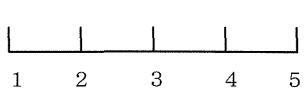
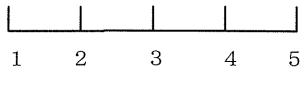
北海道教育大学旭川校 特別支援教育分野

教授 安達潤

## 熱中傾向や没頭傾向を知るためのアンケート

以下の 24 の質問項目を読んで、それが中学生の頃の自分の性質に当てはまる程度を考えて下さい。そして、最もよくあてはまるものを 1 つだけ選んで、選んだ番号を○で囲んで下さい。あまり考え込まずに、思うとおりに回答して下さい。

氏名 :

1. 自分のことを考えるのに没頭していることが多かった。  

2. 一つのことをやり出すと、つい他のことを犠牲にしてしまっていた。  

3. 他の人との比較で、自分自身についていつまでも考え続けることがよくあった。  

4. 凝り性でものごとに熱中しやすいたち\*だった。(※性質のこと)  

5. つらかった思い出をいつまでもかみしめていることがあった。  

6. 自分の身体の調子が気になり出すと、いつまでも気になってしまった。  

7. 興味を持ったら、結構、のめり込んでしまう方であった。  

8. 自分のことについて考え始めたら、なかなかそれを止めることができなかった。  

9. しなければならないことは寝食を忘れてやりとげた。  

10. 長い間、自分についてのことで思いをめぐらせていることがよくあった。  

11. 自分のことを考え出すと、それ以外のことに集中できなくなった。  


## Appendix.5

- じがいがといえはあてはまらない  
じがいがといえはあてはまる  
じあいともいえない  
かならあてはまる
- 全くあてはまらない  
1 2 3 4 5
12. ひとつのことに興味をもつと、他のことには目を向けないたちだった。
- ときどき変化を求めて普段とは違ったことをした。  
1 2 3 4 5
14. 大きな課題や仕事をやり始めたら、それが終わるまで別のことには手を出さない方だった。  
1 2 3 4 5
15. 自分の能力について、長い間考えることが多かった。  
1 2 3 4 5
16. 何かやり出したら最後までやりとげなければ気がすまない方だった。  
1 2 3 4 5
17. 一つのことが気になり出すと、それが片付くまで何かにつけて気になってしまった。  
1 2 3 4 5
18. 自分はどんな人間なのか、長い間考え続けることがよくあった。  
1 2 3 4 5
19. 物事は、やりだしたら徹底的にしたかった。  
1 2 3 4 5
20. 気晴らしをするのは上手だった。  
1 2 3 4 5
21. 過ぎ去ったことについて、あれこれ考えることが多かった。  
1 2 3 4 5
22. 楽しかったときの思い出に、長い間ふけっていることがあった。  
1 2 3 4 5
23. 何らかの感情がわいてきたとき（例：落ち込んだ時、嬉しかった時）、なんでそんな気持ちになるのか、長いこと考えてしまった。  
1 2 3 4 5
24. 自分がこういう人間であればなあと、いつまでも長い間空想することがあった。  
1 2 3 4 5

以上で、アンケートの質問はすべてです。最後に、もう一度、回答し忘れた質問項目がないかどうかをご確認後、右の□にチェック下さい。※確認は終わりましたか？ → □ はい  
すべての質問にご回答いただき、ありがとうございました。

研究実施責任者 北海道教育大学旭川校  
特別支援教育分野 教授 安達潤

II、以下の文章を読んで、「あてはまらない」から「あてはまる」までの中で、自分について最も適当なものの数字に○をつけてください。

氏名：

あてはまらない	あまりあてはまらない	すこしあてはまらない	あてはまる
---------	------------	------------	-------

記入例 細かい計算が得意だ。

1 — 2 — 3 — 4

- 
1. 何かをするときには、一人でするよりも他の人といっしょにするほうが好きだ。 1 — 2 — 3 — 4
2. 同じやりかたを何度もくりかえし用いることが好きだ。 1 — 2 — 3 — 4
3. 何かを想像するとき、映像(イメージ)を簡単に思い浮かべることができる。 1 — 2 — 3 — 4
4. ほかのことがぜんぜん気にならなくなる(目に入らなくなる)くらい何かに没頭してしまうことがよくある。 1 — 2 — 3 — 4
5. 他の人が気がつかないような小さい物音に気がつくことがよくある。 1 — 2 — 3 — 4
6. 車のナンバーや時刻表の数字などの一連の数字や、特に意味のない情報に注目する(こだわる)ことがよくある。 1 — 2 — 3 — 4
7. 自分ではていねいに話したつもりでも、話し方が失礼だと周囲の人から言われることがよくある。 1 — 2 — 3 — 4
8. 小説などの物語を読んでいるとき、登場人物がどのような人か(外見など)について簡単にイメージすることができる。 1 — 2 — 3 — 4
9. 日付についてこだわりがある。 1 — 2 — 3 — 4
10. パーティーや会合などで、いろいろな人の会話についていくことが簡単にできる。 1 — 2 — 3 — 4
11. 自分がおかれている社会的な状況(自分の立場)がすぐにわかる。 1 — 2 — 3 — 4
12. ほかの人は気づかないような細かいことに、すぐに気づくことが多い。 1 — 2 — 3 — 4
13. パーティーなどよりも、図書館に行く方が好きだ。 1 — 2 — 3 — 4

あてはまらない	あまりあてはまらない	すこしあてはまらない	あてはまる
---------	------------	------------	-------

14. 作り話には、すぐに気がつく(すぐわかる).      1 — 2 — 3 — 4
15. モノよりも人間の方に魅力を感じる.      1 — 2 — 3 — 4
16. それをすることができないとひどく混乱して(パニックになって)しまうほど、何かに強い興味を持つことがある.      1 — 2 — 3 — 4
17. 他の人と、雑談などのような社交的な会話を楽しむことができる.      1 — 2 — 3 — 4
18. 自分が話をしているときには、なかなか他の人に横から口をはさませない.      1 — 2 — 3 — 4
19. 数字に対するこだわりがある.      1 — 2 — 3 — 4
20. 小説などを読んだり、テレビでドラマなどを観ているとき、登場人物の意図をよく理解できないことがある.      1 — 2 — 3 — 4
21. 小説のようなフィクションを読むのは、あまり好きではない.      1 — 2 — 3 — 4
22. 新しい友人を作ることは、むずかしい.      1 — 2 — 3 — 4
23. いつでも、ものごとの中に何らかのパターン(型や決まりなど)のようなものに気づく.      1 — 2 — 3 — 4
24. 博物館に行くよりも、劇場に行く方が好きだ.      1 — 2 — 3 — 4
25. 自分の日課が妨害されても、混乱することはない.      1 — 2 — 3 — 4
26. 会話をどのように進めたらいいのか、わからなくなってしまうことがよくある.      1 — 2 — 3 — 4
27. 誰かと話をしているときに、相手の話の‘言外の意味’を理解することは容易である.      1 — 2 — 3 — 4
28. 細部よりも全体像に注意が向くことが多い.      1 — 2 — 3 — 4

質問は裏面に続きます⇒

	あてはまらない	あまりあてはまらない	すこしあてはまる	あてはまる			
29. 電話番号をおぼえるのは苦手だ.	1	—	2	—	3	—	4
30. 状況(部屋の様子やものなど)や人間の外見(服装や髪型)などが、いつもとちょっと違っているくらいでは、すぐには気がつかないことが多い.	1	—	2	—	3	—	4
31. 自分の話を聞いている相手が退屈しているときには、どのように話をすればいいかわかっている.	1	—	2	—	3	—	4
32. 同時に2つ以上のことをするのは、かんたんである.	1	—	2	—	3	—	4
33. 電話で話をしているとき、自分が話をするタイミングがわからないことがある.	1	—	2	—	3	—	4
34. 自分から進んで何かをすることは楽しい.	1	—	2	—	3	—	4
35. 冗談がわからないことがよくある.	1	—	2	—	3	—	4
36. 相手の顔を見れば、その人が考えていることや感じていることがわかる.	1	—	2	—	3	—	4
37. じゃまが入って何かを中断されても、すぐにそれまでやっていたに戻ることができる.	1	—	2	—	3	—	4
38. 人と雑談のような社交的な会話をすることが得意だ.	1	—	2	—	3	—	4
39. 同じことを何度も繰り返していると、周囲の人からよく言われる.	1	—	2	—	3	—	4
40. 子どものころ、友達といっしょに、よく‘〇〇ごっこ’(ごっこ遊び)をして遊んでいた.	1	—	2	—	3	—	4
41. 特定の種類のものについての(車について、鳥について、植物についてのような)情報を集めることが好きだ.	1	—	2	—	3	—	4
42. あること(もの)を、他の人がどのように感じるか想像するのは苦手だ.	1	—	2	—	3	—	4
43. 自分がすることはどんなことでも慎重に計画するのが好きだ.	1	—	2	—	3	—	4
44. 社交的な場面(機会)は楽しい.	1	—	2	—	3	—	4

	あてはまる	すこしあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
45. 他の人の考え方(意図)を理解することは苦手だ。	1 — 2 — 3 — 4			
46. 新しい場面(状況)に不安を感じる。	1 — 2 — 3 — 4			
47. 初対面の人と会うことは楽しい。	1 — 2 — 3 — 4			
48. 社交的である。	1 — 2 — 3 — 4			
49. 人の誕生日をおぼえるのは苦手だ。	1 — 2 — 3 — 4			
50. 子どもと‘〇〇ごっこ’をして遊ぶのがとても得意だ。	1 — 2 — 3 — 4			

# 厚生労働科学研究費補助金（障害者対策総合研究事業）

## 分担研究報告書

### 「発話速度が異なるコミュニケーション場面における同調傾向知覚」に関する ASD 成人と非 ASD 成人を対象としたアイトラッキング研究 ～注視行動、反応時間、正答率を測度として～

研究分担者 安達 潤 北海道教育大学旭川校 教授  
研究代表者 内山登紀夫 福島大学人間発達文化学類 教授

【研究要旨】asd と non-asd の成人を対象にコミュニケーション場面での同調傾向の知覚を検討した。一方の発話ともう一方の頷きや表情変化という非言語応答行動コミュニケーション場面の非言語応答側のビデオ映像に発話側の音声を用いて、偽物会話（動画編集で音声と映像に時間的なズレを設定）と加工を施さない本物会話の動画刺激を準備した。発話速度に遅い(slow)と速い(fast)の二条件を設定して各 12 試行用意し、計 24 試行で混合提示した。課題は動画刺激が本物会話か偽物会話かの判断である。Tobii TX300 アイトラッカーで注視行動と判断キー押しの反応時間と正答率を得た。反応時間は asd 群が non-asd 群よりも長く、正答率は asd 群が non-asd 群よりも低かった。slow と fast を分けて分析した結果も同様であった。全 24 試行で分析した注視行動は、動画刺激の「目」「鼻」「口」「頬と顎」「髪」「頸」「身体」「背景」の 8 領域について、一試行あたり平均注視数と一注視あたり平均注視時間を分析した。結果、平均注視数は「目」、「鼻」、「髪」で non-asd 群の方が多く、「口」、「頬と顎」、「頸」、「身体」、「背景」で asd 群の方が多かった。平均注視時間は「目」、「鼻」、「頬と顎」、「髪」で non-asd 群の方が長く、「口」、「頸」、「身体」、「背景」で asd 群の方が長かった。asd 群は会話の同調傾向の知覚が non-asd 群よりも弱いことが示唆された。また fast における non-asd 群の注視行動パターンは asd 群の注視行動パターンに近づいた。asd 特有とされる口を注視する注視行動パターンは単位時間あたりの処理情報が過剰になった場合に一般的に認められる現象である可能性が示唆された。

#### A. 研究目的

自閉性障害・アスペルガー障害・特定不能の広汎性発達障害に共通する中核的な障害特性は社会性の障害であるが、知的障害のない群では生育歴に目立った言葉の遅れが見られず日常的な言葉でのやりとりも可能な場合が多い。このことは、彼らの社会性障害が本来、非言語コミュニケーションの領域に根ざしていることを示唆している。実際、知的障害のない成人の ASD 者には非言語コミュニケーションの困難さが認められる。例えば、Tantam et al.(1993)は、半構造化インタビュー時の ASD 者と定型発達（以下、TD: Typical Development）者の非言語コミュニケーション行動のビデオ記録を詳細に分析し、「インタビュアーとの発話

の順番交代の明確性は TD 群の方が高く、ASD 群との会話では互いの発話がぶつかって遮られることが多い」、「発声と頭部運動とジェスチャーの同時生起は TD 群の方が ASD 群よりも顕著」、「インタビュアー発話時のインタビュアーへの注視時間は TD 群の方が ASD 群よりも長い」といった事実を認めた。また Paul et al.(2009)は知的障害のない 10 代の ASD 者と TD 者の半構造化インタビュー時のビデオ記録を語用論の観点から分析・評定し、ASD 群は TD 群に比べて「相手の働きかけに応答しないこと」、「やりとり行動の乏しさ」、「特異なイントネーション」、「相手を注視しないこと」といった特徴を多く認めている。さらに、Garcia-Perez et al.(2007)は、年齢と知

的障害の程度を合わせた ASD 児と非 ASD 児に対する半構造化インタビュー場面のビデオ記録を行動測度（相手への注視時間の割合、うなずきと首を振る回数、笑いの回数の 3 つ）と間主観測度（情動的なつながり感とやりとりのスムーズさに対する 5 段階評定）の二つの視点から分析し、行動測度に示される ASD 群における相互やりとりは低調で、インタビュアーと ASD 児の双方にやりとり行動の低下があること、間主観測度では情動的なつながり感およびやりとりのスムーズさの両評定とも ASD 群の方が低いことを認めている。

以上のように ASD 者の非言語コミュニケーションの困難さに関する知見が示唆するのは、なめらかな対人交流と心理的同調の実現の表裏一体性である。この表裏一体性はコミュニケーションの同調傾向に関する研究として知られており（長岡,2006）、例えば、互いに自分の意見をぶつけ合う非協調的対話と互いの妥協点を見いだそうとする協調的対話を比較した研究（長岡ら,2003）では、協調的対話において対話者間の発話潜時が相互に近接し、相槌回数も多くなるという結果が示されている。

安達ら(2012)は、この同調傾向の知覚について ASD と一般の成人を対象にアイトラッカーを用いて実験的に検討している。その結果、ASD 成人は一般成人に比べて会話の同調傾向に時間を要し、視線方略の効率性が悪いことが示されている。ただし安達ら(2012)の研究では、3 つの動画が一画面に提示されていたため会話者の顔のどこに視線が向かっている

かの分析が困難であった。

本研究の目的は、安達ら(2012)の研究を発展させ、動画に提示される会話者に対する視線の詳細な分析を行い、ASD と一般の成人における会話の同調傾向知覚における遂行の差異を検出することである。さらに本研究では、会話速度に遅い（以下 slow）および速い（以下 fast）を実験要因として設定することによって、1 単位時間当たりの会話の情報量が同調傾向知覚に与える影響を検討した。

## B. 研究方法

### 1) 対象

本研究の協力者は、asd 群 4 名（平均年齢 26.0 歳、平均 AQ 値 35.5）と non-asd 群 6 名（平均年齢 23.5 歳、平均 AQ 値 10.5）の計 10 名である。asd 群 4 名の構成は、分担研究者が支援に携わっている 1 名および、よこはま発達クリニックのクライアント 3 名である。asd 群の診断は DISCO ユーザーによる DISCO 評定によって実施されている。non-asd 群 6 名の構成は、分担研究者が所属する北海道教育大学に在学する学生 3 名と卒業生 2 名および、よこはま発達クリニックのスタッフ 1 名である。

### c) 動画刺激の作成

動画刺激の作成は、互いに仲の良い友人関係である 2 人の女子学生のコミュニケーション場面をビデオで撮影して動画刺激作成のためのビデオ素材を得た。ただし、発話のクロストークが起こらないように、刺激作成協力学生の一方のみが発話し、他方はその発話に対する相づち

や表情変化によるレスポンスのみを行うように求めた。ビデオで撮影したのは、発話する学生ではなく、相づちや表情変化でレスポンスをする学生のみである。本研究の目的はコミュニケーション場面での非言語レベルの反応から会話の同調傾向の知覚を検討することであるため、以上の設定で動画刺激を作成するためのビデオ素材を得ることができた。

なお、発話者の発話内容については、誰もが体験し得る一般的なテーマとして「祖母との思い出」、「高校時代の試験勉強」、「日常生活での失敗体験」の3つを設定し、そのテーマに沿った発話内容のあらすじを予め準備した。発話内容をスクリプトではなくあらすじのレベルで設定したのは、発話の自然さを保つためであった。

さらに、発話の速度を「slow」と「fast」の2種類設定した。「slow」の場合にはできるだけ遅く喋ることを求め、「fast」の場合には発話者にできるだけ速く喋ることを求めた。発話者の学生は、日常での喋る速さがゼミの中でもっとも速いと周囲から評価されている学生であり、同時に、ゼミの中で一番ゆっくり喋る学生の喋り真似が声だけでは区別がつかないレベルで可能な者であった。

以上の手続きで得られたビデオ素材を動画編集ソフトでパソコンに取り込み、本物会話の動画刺激と偽物会話の動画刺激を作成した。本物会話の動画刺激は、上述の手続きで撮影したビデオを20秒間で抽出したものをそのまま動画刺激とした。偽物会話の動画刺激は、例えば、会話場面Aのビデオに会話場面Bの音声

を重ねることで20秒間の動画刺激を作成した。ただし偽物会話の動画刺激作成は同一の発話速度のビデオ素材からビデオと音声を抽出して行った。

#### d) 実験の構成

実験の構成は、課題を理解するための練習ブロックを行った後、本実験ブロックを実施した。本実験ブロックは8試行で構成された1セッションを3セッション実施し、分析対象として24試行のデータを得た。なお、セッション間には協力者のペースで一時休憩できることを伝える画面を提示した。今回の実験の実験要因である〔会話の本物／偽物〕および〔会話速度の slow／fast〕については、1セッション8試行の中ですべての組み合わせが2回提示される構成とし、刺激提示順は〔本物／偽物〕および〔slow／fast〕が両方とも4回以上連続しないような疑似ランダム配置を行った。

#### e) 実験装置と測度

実験装置はTobii TX300アイトラッカーを使用した。TX300は市販の高性能パソコンで制御できる完全非侵襲型のアイトラッカーであり、TX300の機器構成の一部である23インチモニター眺めるだけで視線データの記録が可能である。またキャリブレーションも簡便であり、臨床群（ASD群）の協力者にも負担をかけることはなかった。動画刺激の提示はTX300を駆動するパソコン上で作動するTobii Studioという専用ソフトウェアで制御したため、動画刺激提示のタイミングと反応キー（パソコンのキーボード

を使用) の押下とのタイミング、視線データを同時に記録することが可能である。測度は反応時間、正答率、注視行動である。反応時間は動画刺激が提示されてから反応キーを押すまでの時間、正答率は正答試行数を全試行数(24試行)で除した数値、注視行動は一試行あたりの平均注視数と一注視辺りの平均注視時間である。なお注視行動については、Tobi Studio上で動画刺激提示領域に8つの領域(AOI: Area Of Interest)を設定することで、動画刺激の8つの領域毎の分析を行った。今回の研究で設定した8つの領域は、「目(eye)」、「鼻(nose)」、「口(mouth)」、「頬と顎(cheek&chin)」、「髪(hair)」、「頸(neck)」、「身体(body)」、「背景(background)」であった。図1に今回の研究で設定したAOIを示す。

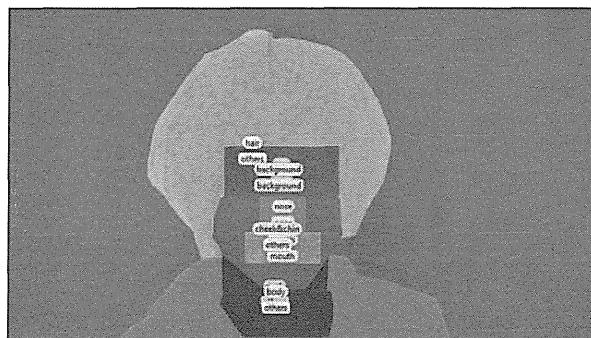


図1 8つのAOIの設定領域

#### f) データ分析

測度の分析については、本研究が最終年度に開始したこともあり両群とも協力者数を積み上げることができなかつたため、記述統計の提示に留める。

なお、2名の協力者については瞬きの多発などの理由によって分析に十分な信頼性の高い視線データが得られなかつた。そのため、反応時間と正答率の結果は、

asd群4名、non-asd群6名のデータに、視線行動のデータはasd群3名、non-asd群5名のデータに基づいている。

#### (倫理面への配慮)

研究協力に際しては、研究内容の説明を書面で十分に行い、研究協力の同意書への署名を依頼した。得られた同意書は北海道教育大学の分担研究者の研究室に厳重に保管する。なお本研究には侵襲性はなく危険性はほとんどないが、実験への協力従事に際して不快感等を感じた場合は、フォローのカウンセリングを各研究実施場所で行う。また、得られたデータは、個人名を分離し、ID管理を行う。対照表はデータ表とは別に保管する。

### C. 研究結果

#### 1) 反応時間

全24試行の平均反応時間はasd群で1513.9 msec、non-asd群で1193.4 msec、slowではasd群で1572.2 msec、non-asd群で1149.5 msec、fastではasd群で1457.6 msec、non-asd群で1251.3 msecであった。以上の結果を図2に示す。

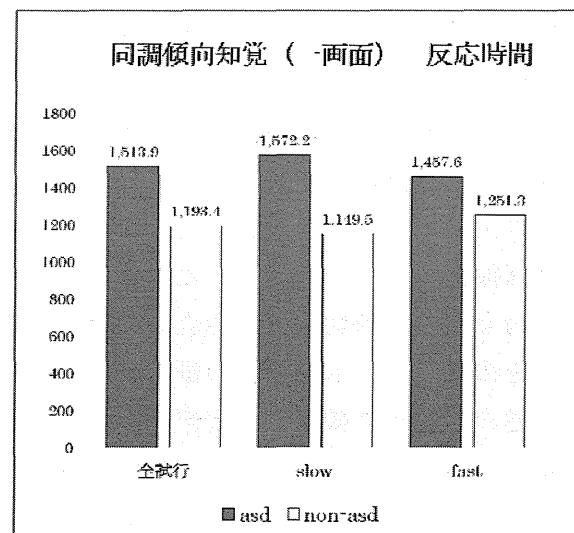


図2 asdとnon-asd群の反応時間結果